

2 歳児がつぶやき歌を歌う時

-言葉と歌の関係に焦点をあてて-

渕 田 陽 子

1. はじめに

本研究は、保育園で生活する言語獲得期の子どもがどのような経過と状況でつぶやき歌を歌うのかを調査したものである。

歌は自分を「表現」する手段である。その歌には既存の歌や他者が作った歌を歌う場合、自分が作った歌を歌う場合、複数で歌う場合、1人で歌う場合、行事や催しのために歌を歌うような目的があって歌う場合、自分が歌いたい時に気ままに歌う場合など、歌を歌う状況は種々様々な状況がある。なお、行事や催しで歌うような目的がある場合には「作品のできばえ」に目的がおかれ歌う本人の「内からの働きかけ」以上に「外からの働きかけ」が強くなりがちであり、一方、自分が歌いたい時にきままに歌う場合や自分が作った歌を歌う時には、本人の「内からの働きかけ」によって歌われるはずである。

「内からの働きかけ」がなされるだろう自分が作った歌には、「歌を作る」意識があるいわゆる作曲と作詞から成り立つ「Inventing songs」、それほど意識がないのに口から出てしまう「Spontaneous songs」がある。「Spontaneous songs」は日本語では「自発歌」「つぶやき歌」と呼ばれ、「Spontaneous songs」の早期は単一の短い旋律反復から成立している¹という。

子どもの「自発歌」「つぶやき歌」は自分の身体から主体的に声を出すという音楽活動であるため子どもの主体的な音楽活動として注目され続けている。梅沢（1986）は、2歳児後半女児が、母親が傍らにいる時に歌ったつくり歌を通して、つくり歌成立の条件はⅠ歌いたいという音楽的表現の要求、Ⅱ展開、持続を可能にする技能・条件、Ⅲ表現を支えるイメージを創ること²（引用文献）と述べ、細田（1998）は2歳7ヵ月男児、2歳9ヵ月女児が歌ったつぶやき歌の様子を分析し、つぶやき歌を歌いはじめる時に歌いかける対象が存在していること、その対象に歌いかける気持ちの高まりがつぶやき歌を生み出している³ことを示唆し、南（1999）は1歳4ヵ月から2歳5ヵ月までの1女児が歌った自発歌について調査を行い、ことばの反復が声の抑揚、高さ、強さ、長さ、音色などの音律的側面を浮上させることが歌を生む契機となり、発話時にことばを反復するという現象と歌の発生は無関係ではない、したがって、言語習得期は発話を歌に転換する歌唱のための1つの方略⁴であることを説明している。渕田（2014）は保育園生活をおくるT児が歌詞のある歌を歌い始める時期の歌唱発達経過調査を行い、T児の集団活動時に既存の歌を歌う歌唱発達経過と自分が作った歌を自分が歌い時に歌う歌唱発達経過が異なる経過であることを明らかにしている⁵。

幼稚園教育要領『表現』[感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする]は、自分の「内からの働きかけ」によってなされていくことを示している。その「内からの働きかけ」が活発にできるような環境や状況に子どもをおくことを考える時、親や兄弟と生活する家庭と同年齢の子どもと保育者で生活する保育園、子ども園、幼稚園とでの環境や状況で設定は異なり、様々な環境や状況を踏まえて考えていく必要があり、それらを考えるにあたっては現状を知らなければならない。

そこで本研究では、保育園生活を送る 2 歳児が歌う「つぶやき歌」「自発歌」を歌う状況や様子について示唆されていることをさらに明らかにしていくことを目的に、保育園で過ごしている言語獲得期にあたる 2 歳児が発する言葉の反復によってできる「つぶやき歌」に絞り、調査と考察を行うことにした。

2. 研究方法

兵庫県私立保育園に通う A 児(2005 年 12 月生まれ)と B 児 (2006 年 2 月生まれ) を観察対象児にした。調査対象児の選択には、長期調査なので、退園、転園の予定がない、早退や遅刻が少ない、音楽関連のお稽古事などを行っている場合その影響が予想されるので音楽関係の課外活動を行っていない条件に該当する A 児と B 児を選択した。A 児を 2007 年 6 月から 2008 年 11 月まで火曜日、B 児を 2007 年 1 月から 2009 年 3 月まで木曜日に、週 1 回ずつ観察調査を行った。(8 月全て、12 月 4 週目、1 月 1 週目、3 月 4 週目、4 月全ては保育園の諸事情により行わなかった) その観察調査は、参与観察によって保育園登

園後から昼食開始時間迄の観察対象児 (A 児 B 児) の行動を目で追いつけたままメモを取り、ボイスレコーダーでも記録をした。保育には積極的な参加はせず、観察対象児が関わりを求めて来た時には相手をし、観察対象児以外の子どもが筆者に関わりを求めて来た時には、観察対象児の行動を目で追いながら観察対象児以外の子どもと関り、その子どもとの関りが

表 1:観察時間内のおおよその時間経過

1 歳児クラス	2 歳児クラス
9:30 (観察開始) 自由遊び	9:30 (観察開始) 自由遊び
10:00 おもちゃかたづけ	10:10 おもちゃかたづけ
10:10 歌遊び、身体活動	10:15 歌遊び・外に行く準備
10:25 外に行く準備 外遊び	10:20 歌遊び、身体活動
10:55 外遊び終了、室内へ、手洗い	10:25 外遊び
11:05 歌遊び・絵本	11:00 外遊び終了、室内へ、手洗い、昼食用意
11:15 昼食 (観察終了)	11:20 歌遊び
	11:30 昼食 (観察終了)

終了したあとに観察対象児について記録を記した。観察後にフィールドノートを作成し、観察対象児が声を出した内容、行動及び事象を抽出、分析、検討を行った。

観察対象児について

A児の家族構成は両親、姉（2001年生まれ）、B児の家族構成は両親、兄（2002年2月生まれ）、通園開始年月日は2007年4月、クラス人数は、1歳児の時は16～18名、2歳児の時は24名であった。

本論でのつぶやき歌の定義

本論での歌とみなす行為は、①一定の拍節で旋律がある。②旋律的に言葉を唱える。③既存（既成）の歌に声をあわせる。以上①②③のいずれかにあてはまれば歌とみなす行為とした。子どもの遊びに付随した歌は、本人が歌と自覚しないまでも歌である⁶という岩井の主張を基に、歌っている子どもの意識は考慮していない。

次に、つぶやき歌とみなす定義は、細田の①即興的に子どもがメロディーやことばを創作してうたう歌。既成の歌が一部含まれることもある。②自発的にうたいだした歌。つまり他者に促されてうたうものは含めない。③子どもが一人でうたっている歌。親や保育者がうたう歌に誘発され、合わせてうたうものは含めない。④歌詞や音程がある程度はつきり聞き取れるうた。言葉の意味が第三者に理解できないものも含める⁷（引用文献）とした。

本論での記し方については、曲名を《 》、歌詞を♪♪、絵本等の題名『 』、強調したい部分と話し言葉を「 」又は斜体文字、説明の付け加えと歌わなかった歌詞の部分を（ ）用いて表した。

観察開始時のA児 B児の様子

観察開始時A児は、室内をよたよた走ったりしながら「わあわあ」と声を出す姿を、時々、確認したものの、言葉や声を出すことは稀だった。保育者がA児と関る時に、A児は、満面の笑みでうれしそうな表情を浮かべたり、保育者に自分のしてほしいことを頼む時には、例えば、人形をおんぶしたい時にはおんぶ紐と人形をもって保育者の所に行き、それら二つを保育者に差し出す、或いは、背中を向ける行動で保育者に伝えていた。保育者からの問いかけには笑いで返すことがほとんどで、たまに「うう」と声を出していた。

一方、観察開始時B児は、集団遊び自由遊びどちらの時にも1人である時が多く、歌に関わらず声を出すことが極めて少なかった。声を出す場合は部屋を歩いたり、戦闘キャラクターのポーズをとったりしながら「シャー」や「シュワッ」と無声音を出していた。

3. 結果 考察

3-1.発声経過

A児B児の発声内容を抽出したところ、月齢1年11ヵ月から2歳11ヵ月に確認した発話回数はA児543回、B児172回でB児はA児の3分の1のみの発話、単語を話し始めた時期はA児が1歳10ヵ月、B児は2歳3ヵ月、単語を2回反復発話した時期はA児1歳11ヵ月、B児2歳8ヵ月だ

った。言葉を反復する歌はA児が2歳0ヵ月、B児が2歳8ヵ月だった。南（1999）が研究対象にした女兒は1歳7ヵ月に「トレナイ、トレナイ」と拍節的に歌っていて⁸B児と南が研究対象にした女兒とでは言葉を反復する歌を歌い始めた時期に13ヵ月もの違いがある。この違いは、南は家庭で歌った女兒を観察で、A児B児は保育園での観察だったということがありうる。A児B児2人に共通することは発話順序で、それは単語一語、単語を2回反復発話、反復する歌を歌う、二語文で話す順序だった。なお、A児については、2歳7ヵ月に2語文以上で構成した文章のつぶやき歌を歌ったのを確認した。

表 2 A児B児の発声経過

月 齢	声を出す内容	
	A 児	B 児
1歳6か月 1歳7か月 1歳8か月	声を出す（うう、わあ、わあ） リズムに合わせた発声（いーち、いーち） 声を出す（あーっ）	観察せず
	観察せず	
1歳10か月	名称を言う（ママ、パパ、しえんしえ、ねこ） 同じ言葉を繰り返す（エンエン、アイアイ オノマトペを言う（パタパタ、）、	
1歳11か月	2語文を使う（せんせいおわった） 同じ言葉を繰り返す（あちいやったあち いやった）	声を出す（あああああっ、わわわわわわわ、 あっあっあっ）
2歳	★言葉を反復した歌を歌う	無声音を出す（シャァー）
2歳1か月	形容詞を含んだ2語（茶色い葉っぱ）	声を伸ばす。（きええ、きええ、うえええ、 いえええええ。いええええ、うううううう う、ひいひい）掛け声を言う（よっ、よっ） 濁音を言う（ばあばあばば）
2歳2か月	3語文（ママのおかしかった）、関 西弁を言う。	変化なし
2歳3か月	発声の抑揚を。（言葉は曖昧）	名称を言う（イチゴ）
	観察せず	オノマトペを言う（きらきらあ）
2歳5か月	人に質問する（ちょうちょどこ？ともち ゃん、これは？）	変化なし
2歳6か月	目に見えない物ついて話をする。 「これどんな味がする？」という問いか けに「みかんのあじ」と答える）	観察せず
2歳7ヵ月	自分の名前を始めに言う。（Aちゃん すわる、Aちゃん ××ときたねん、A ちゃん ××せんせい、）	変化なし
2歳8ヵ月	★文章になった歌を歌う	言葉を反復して言う（にんじんにんじん、こ れこれこれ）★言葉を反復した歌を歌う
2歳9ヵ月	過去形を使う（ままと食べたことある）	二語文を使う（ママいってえよ、でたよお しっこ）
2歳10ヵ月	状況を言う、感情を言う（どんぐりいれ ちゃったあ、かえるさんごはんたべと お、せんせいこわい）	形容詞を使う（こわい、いっぱい、いっぱい ボールない）友だちの状況を言う（○○ちゃ ん、えーんえんしてる）
2歳11ヵ月	会話が続く	変化なし

3-2.事例 （歌は番号を○で囲み、言葉は番号を□で囲む）

3-2-1 名詞を含む反復をした発声時の事例

A 児 B 児が同じ単語を反復した言葉と歌を抽出したところ言葉 23、歌 10 を抽出した。それら 10 のうち歌詞に名詞を含んだ歌が 4 で、今回、抽出できた歌の半数程であった。

3-2-1-(1).同じ名詞を反復したつぶやき歌の事例

- ① A 児 2 歳 保育者が保育室にいる 2 歳児全員にパープサートを見せながら歌「しゃぼんだま」を歌い、絵本『てぶくろ』を読み、「お昼ごはんにしよう」と言うと、子どもたちが食卓に移動する。A は食卓に行く途中で ♪ばいきんまん、ばいきんまん、ばいきんまん、ばいきんまん♪ と身体を上下にして歌う。
- ② B 児 2 歳 8 カ月 散歩に行く途中にバイク置き場を通る。B 児と手をつないでいる T 児が「バイクや」と言ったあと、すぐ、♪バイクウ バイクウ バイクウ♪ と歩きながら歌う。
- ③ A 児 2 歳 10 カ月 1 人でパズルをしながら ♪おにくがない、おにくがない、おにくがない、おにくがない、おにくがない♪ と歌う。（にくは肉のようである）
- ④ A 児 2 歳 11 カ月 自由遊び時に、乾燥したたくさんのギンナンがはいっている箱の中に両手をいれてギンナンをかき混ぜる。しばらくかき混ぜた後にギンナンが入った箱から両手を出し ♪ギンナン、ギンナン、ギンナン、ギンナン……♪ と歩きながら歌う。

3-2-1-(2).同じ名詞を反復して言葉のままだった事例

- ① B 児 2 歳 8 カ月 ままごと用の皿に毛糸と目玉焼きをのせ、近くにいる保育者にもっていく。その皿を渡しさらにスプーンを渡す。保育者「B 君ありがとう。いただきます。」食べたふりをしてから「ありがとう」B 児に皿を返す。B 児が、ままごとの人参、ブロッコリー、目玉焼きの上におにぎりをのせて、再び、保育者にもっていく。皿を渡す。保育者「すごい、B 君。ありがとう。どれから食べたらいいかな？」ブロッコリーをさす。保育者「これ？ブロッコリー？」B 児「×んじん、×んじん」と言う。
- ② A 児 2 歳 3 カ月 保育者のひざに座り絵本『ぼくはパッケン』をみている。てんとうむしの絵をさし A 児「てんとうむし、てんとうむし」という。保育者「ねこだあ。食べるぞパッケン」と言い、次のページをめくる。A 児「パッケン」「さんりんしゃ」と言う。保育者「あつ、さんりんしゃ。食べるぞパッケン」と絵本を読む。
- ③ A 児 2 歳 9 カ月 ままごとで遊んでいる。保育者のところに近寄り、保育者の近くにあるコップをもち、「じゃあ（ポット）ない、じゃあない、じゃあない」
- ④ A 児 2 歳 11 カ月 ままごと遊びで牛乳空パックを棚からもってきテーブルにおく。そこに、女児がやってきて「怪獣くるで。怪獣」と言う。保育者が「怪獣、来たらどうしよう」A 児は大きい声で「かいじゅうきたあ」ささやくように「かいじゅうきたあ」大きい声で「かいじゅう かいじゅう」続いて普通の声で牛乳空パックをもって「ミルク」保育者「誰のミルクかな？」
- ⑤ B 児 2 歳 11 カ月 フェンスの外にボールが出る「あつ、あつ、あああ あああ」言いながら園庭を走り回っている転ぶ。泣きそうな顔になりながら起き上り「ボールボール」と言い、フェンスに向かっていく。

同じ言葉を反復したつぶやき歌は 4 つの歌全てが 3 回以上反復をしている。一方、同じ名詞を反復して言葉のままだった事例は、事例①、②、④である。その事例①、②、④は保育者との会話をした発話であり、A 児 B 児が会話を目的に声を出している時には歌にはならなかったわけである。

言葉になった事例③「じゃあない(ポットがない)、じゃあない(ポットがない)、じゃあない(ポットがない)」は、ままごと遊びでコップに水を注ぐふりをする行為の最中、事例⑤はボールを追いかけるのに夢中な様子で、事例③と⑤は、物事に集中しているように見えた。

3-2-2. 名詞を含まない反復をした発声時の事例

同じ名詞を反復したつぶやき歌は全て人と関わりがない時に歌っていたが、名詞を含まない同じ言葉を反復したつぶやき歌では6つのうち、人と関わりがない時に歌っていた歌が3つ、人と関わりながら歌った時が3つだった。

3-2-2-(1).a 人と関わりがない中で同じ言葉を反復したつぶやき歌の事例

⑤B児 2歳8ヵ月 約30分の外あそびを終え先生の「お部屋に帰りますよ」の声で玄関にはいり、靴をぬぎ、靴をもったまま、下駄箱の前に立ち、下駄箱をみながら、体を左右に動かし、♪どこどこどこと歌っている。(自分の靴を、どこに入れたらよいのか考えている様子)歌が止み、靴を下駄箱のあいている棚にいれ、保育室に行く。

⑥B児 2歳8ヵ月 木製パズルをしている。保育者に聞きながらパズルが終わると、足踏みをして♪やったなやったな♪と歌う。

⑦A児 2歳11ヵ月 寒い日に外遊びを終え保育室に戻るのに、階段を上がっている時に手摺につかまりながら♪つめたあいつめたあい♪と歌う。

3-2-2-(1).b.人と関わりがない中で同じ言葉を反復した発話時の事例

⑥A児 2歳5ヵ月 室内を歩いていてころびかける「あぶなかったあ、あぶなかったあ」

⑦B児 2歳10ヵ月 外遊びで小型ジャングルジム2段目にのる。「して」と言い保育者の手を握り「こわい、こわい」と言う。

⑧B児 2歳10ヵ月 a.ボールを投げる、b.蹴る、c.ボールを追いかける、a.b.c.の動きを3セット繰り返したあと、「いやいやいや」と言う。

⑨B児 2歳11ヵ月 外遊びで、遊具の吊り輪にぶらさがる。「こわい、こわい」と言いながら、ぶらさがり続けている。

⑩A児 2歳11ヵ月 避難訓練で外に出ている。保育者「11月の避難訓練終わりにします」というとA児が小さい声で「おしまい。おしまい」と言って立ち上がる。

⑪A児 2歳11ヵ月 クラスの子どもたち全員と保育者が集まり、手遊び、おはようの挨拶、散歩に行くことを保育者が子どもたちに伝える。A児は「お散歩行くねんな」とつぶやく。保育室を出て「歩いて 歩いて」両手を上下に挙げたり下げたりしながら言う。

事例⑤♪どこどこどこ♪⑥♪やったなやったな♪⑦♪つめたあいつめたあい♪は遊び終えた直後或いは、遊びに一区切り時に歌っている。人と関わりがない発話の反復は、事例⑥「いやいやいや」は発話前の状況から発話をした理由が推測できない。事例⑦、⑧、⑨は、ころびかけて「あぶなかった」遊具の吊り輪で「こわいこわい」と発話をしており、「ひやっ」としたり「こわい」と思ったりした時である。「おしまい、おしまい」「歩いて 歩いて」は集団行動を終えた後に発話をしている。集団行動で保育者が話している間、表情がなく楽しそうにその時間を過ごしているようには見えなかった。

3-2-2-(2)a.人と関わりがある中で同じ言葉を反復したつぶやき歌の事例

- ⑧A児 2歳9ヵ月 昼食前のお祈りをしている最中A児の向かいに座り目を開けているJ子にA児は「ねろ。ねろ」J子は薄目を開けニヤツと笑う。その笑いを見て、A児は♪ねろ、ねろ、ねろ……♪と笑いながら歌う。
- ⑨A児 2歳9ヵ月 昼食前、J子は食事用エプロンを頭からかぶり目が隠れるあたりでエプロンをおろす手を止める。向かいに座っているA児はエプロンでほとんど顔が隠れているJ子をしばらく見つめて「だれ？だれ？」J子の目が笑う。♪だれ、だれ、だれ、だれ♪と歌う。
- ⑩A児 2歳9ヵ月 園庭を歩いていると、1歳児の子どもがA児に手のひらにのるくらいの石をA児に渡した。A児は近くにいる保育者に歩み寄り「先生、赤ちゃんに石もらった」と話す。園庭にいる保育者に寄っていったら「赤ちゃんに石もらった」と言いにいき、運動場を見まわし、石を持っている右手を高くあげて歩きながら「ももらった」「ももらった」♪ももらった、ももらった……♪と歌う。

3-2-2-(2)b.人と関わりがある中で同じ言葉を反復した発話時の事例

- 12 A児1歳11ヵ月30分ほど園庭で足蹴り式乗用玩具で遊び終え、下駄箱で靴を保育者が援助しながら脱いでいる時にA児「あちいやった、あちいやった」保育者「あちやった？」A児「あちやった」保育者「暑かった？」A児「あちい、あちい、ややや」保育者「暑かったね。汗、一杯かいたね」A児「あちやった」靴を脱ぎ保育室に入る。
- 13 A児2歳0ヵ月 外遊びに行くので子どもたちはジャンパーを着て出かける準備をしている。A児は、たんぽぽ(1歳児)クラスと境になっているドアをにぎりこぶしで叩いている。ドアをたたく音が室内に響いている。保育者が「Aちゃん、たんぽぽクラスには行かないよ。今から外に行くんだよ。ドアをドンドンしないよ」とA児に言うと、保育者をちらっと見て、ドアをたたき続ける。保育者が「たんぽぽさんのところにはいかないよ」と言うと、泣きながら「いやや、いやや、いやや」「いやあ、「いや、いや」」と言う。
- 14 A児2歳5ヵ月 外遊びを始める前に保育者が「今日は、砂が濡れているから砂場はお休みです」と子どもたちに話していたが、A児や数人の子どもが砂場にかけてあるシートの縁(砂場の枠外)にのっている。保育者が「今日はお砂場はなしです」と言うのを聞いても、女兒が1人砂場にはいる。A児がその女兒をさして「しとお、しとお(している、している)」と言う。
- 15 A児2歳5ヵ月 「ママ、ママ、ママ、ママ、ママ」「パパ、パパ、パパ、パパ、パパ」「ママ行く、ママ行く」と泣きながら父親に抱っこされて登園し、保育者に父親がA児を預け父親は保育室を退出。A児は登園してから1時間あまり、泣きじゃくりながら「ママ、ママ、ママ、ママ、ママ」「パパ、パパ、パパ、パパ、パパ」「ママ行く、ママ行く」声を発している。
- 16 A児2歳5ヵ月 保育者のひざに抱きつき、泣きながら「だっこ、だっこ」と発している。
- 17 A児2歳7ヵ月 おかたづけ時に、レゴが入っている箱をもとうとすると、D児が横からレゴの箱をもとうとして箱をもっているA児の手をどけようとする。A児は箱を持ち続けて「もっていく、もっていく」と言う。そこに、E児F児がやってきてE児「Aちゃんもっていかないの。Aちゃんもっていかないの」と箱をもつ。D児が手をはなし、A児E児F児で箱をしまう。
- 18 A児2歳10ヵ月 保育者のひざにのり手ににぎりしめたどんぐりを眺めていると、Y児が「みてえ」と保育者のところにくると「あっちいけ、あっちいけ」と言う。
- 19 A児2歳11ヵ月「砂遊びで、ぷりんの型押しでぷりんの形を皿の上にひっくり返し、保育者に見せに行く。見せるとぷりんの形を手でつぶし「ない、ない」と言い砂場にもどる。
- 20 A児2歳11ヵ月 パトカーのサイレンが聞こえる。A児「あれやんな、あれやんな」と保育者に言う。保育者が「何が？」A児「パトカーのあれやんな」

- 21 B 児 2 歳 8 ヶ月 ままごとのおわんをテーブルに置く。H 児がそのおわんをもって室内を走る。B 児が H 児をおいかける。B 児「これ、これ、これ」H 児に向かって言う（おわんはテーブルに置いておいてほしいと伝えている様子）
- 22 B 児 2 歳 9 ヶ月 散歩の途中で手をつないでいる T が遠くにいる保育者に向かって「おおい、おおい」と言った時に、T 児と B 児の頭上をヘリコプターがとぶ。B 児は立ち止まりヘリコプターに向かって「おおい、おおい」と言う。
- 23 B2 歳 9 ヶ月 女兒がしているパズルを見ていると「あかん、あかん、あかん」と言う。B 児が積んでいる積み木を S 児が倒すと「あかん、あかん、あかん」と言う。
- 24 B 児 2 歳 11 ヶ月 登園してきて自分のロッカーにカバンを入れている。「ママして、ママして、ママしてよお」B 児母はロッカーに物を入れる。

人と関わりがある中で歌になった場合、事例⑧⑨は A 児が友だち J 子に問いかけると J 子が笑い始め続いて A 児も笑い J 子と戯れて楽しそうだった。事例⑩は石を受け取ったあとに A 児がにこにこした表情をしていたので石をもらったことをうれしい気持ちで言いふらしたかったのではないかと思われる。言葉のままだった事例は、事例 12 20「あちいやった」「あれやんな」以外の事例 13 15 16 18 19 23 24 は、声を張り上げ表情は不快な表情で自分の気持ちや考えを訴えている。事例 14 は友だちの行為を咎めているようで、事例 12 20 は保育者に質問、確認、事例 22 は頭上をヘリコプターからの応答を求めているように思われる発声だった。

4.まとめ

名詞の反復

名詞を含んだ歌の場合は、会話を目的にしない発声は歌になる傾向があった。ただし、近くに人がいなくても、例えばままごと遊びをしていてコップに水をいれるふりをしようとポットを探している時に「じゃあ（ポット）がない」を反復しており、行為の目的が明確な場合は歌にはならなかった。古賀・無藤・伊集院（1998）は幼稚園年中クラスを VTR 記録、子どもが歌を歌った状況や文脈を分析し遊び時間に即興の歌が有意に多く歌われることと、子どもは何かに意識を集中しているときにはあまり歌わないこと⁹を明らかにして

おり、本調査の言葉になった事例 3 や 5 の 2 歳児 A 児 B 児にも年中 5 歳児と同様に何かに意識を

表 3:A 児 B 児が発話した状況

		歌った状況		言葉を発した状況	
名詞を含んでいる	人がいない	1人で遊んでいる	ひとりごと	(発話していない)	
	人がいる	(歌っていない)		保育者と会話をしている	
名詞を含んでいない	人がいない	自由遊びを終えた後(十分にのびのび遊んだあと	ひとりごと	ひとりごと	・行っている行為に強い目的がある。 ・ひやっとしたり、怖い体験をしたりしている。 ・集団で保育者の話を聞いた直後
	人がいる	相手が笑いはじめた直後嬉しくて言いふらす		声を張り上げて訴えたり、保育者に質問をしたりしている	

集中していると歌にはならないといえるであろう。

同じ言葉を反復したつぶやき歌に判断できた歌 10 のうち、反復を 2 回した歌が事例⑥ ♪ やったな やったな ♪ ⑦ ♪ つめた あいつめた あい ♪、反復を 3 回したのが事例①②⑤⑧⑨⑩、4 回以上したのが事例③④で 3 回以上反復している歌がほとんどだったことから、つぶやき歌は 3 回以上、同じ言葉を反復するとつぶやき歌になることが多いようである。

レヴィティン (2010) は、言語と芸術はどちらも、自分の心が知覚したことを他者に伝えようとしていてその表象活動は脳の働きによって行われている¹⁰、詩や歌詞は意味を圧縮していると説明している¹¹。A 児も B 児も言葉を反復する発話は単語を発声できるようになってから二語文で話せるようになる間に発声している。今回の調査では、名詞或いは名詞を含む二語文を反復している歌が、採取できた歌の 3 割強であることは興味深い点である。何故、反復しているのかが明らかにはできなかったが、他者に伝えようとする意識の有無に関わらず脳の働きのもと自分の感情を圧縮して自分が知っている単語で自分の内から外に放出しているようにも考えられる。

快と不快

名詞を含まない同じ言葉を反復した歌および発話を「人がいる場合」と「人がいない場合」に分けて分析を行い、「人がいない時に、名詞を含まない同じ言葉を反復したつぶやき歌」では、A 児 B 児が歌った歌全てが十分にのびのびと身体を動かし遊んだ直後に歌だった。一方、「人がいない時に同じ言葉を反復した発話」は A 児 B 児が、「ひやっ」としたり怖い体験をしたりした時、集団で保育者の話を聞いた直後だった。

「人がいる時に、名詞を含まない同じ言葉を反復したつぶやき歌」では、A 児 B 児状況はうれしい、楽しい気持ちになっていた時であった。一方、「人がいる時に、同じ言葉を反復した発話」は A 児 B 児が、声を張り上げて訴えていたり保育者に質問をしたりしている時であった。この分析から A 児 B 児の場合、気持ちが快い時には反復がつぶやき歌を歌い、気持ちが不快な時には歌を歌っていないようである。志村 (2005) が生後 6 ヶ月の言語能力が発達する以前の時期でも感情性情報を発声する¹²ことを明らかにしていることから、A 児 B 児も言葉を反復するよりも先に感情が発生していてその感情が声として出ていたとも考えられ、よって、感情が快い時にはつぶやき歌を歌うことが示唆できる。

A 児 B 児が反復したつぶやき歌を歌った際、保育者が A 児或いは B 児と関わりがなかった場面で歌っていた方が多い点について南 (1999) は、家庭で確認した 1 歳 4 ヶ月から 2 歳 5 ヶ月にかけての女儿が歌った自発歌を分析し母親の関与の有無について、お互いに別々のことをしていてマイペースを続けている時に自発歌を歌っているのは、自分の五感のどこかで少しでも母親との交信ができていたようだ¹³と説明している。本調査では A 児或いは B 児の五感が保育者と交信できていたかどうかは推測することができなかったが、保育者が近くにいることが安心感を生む快い環境であっ

たのかもしれない。

「音楽的表現」「内からの表現」が育つ環境

本調査中 A 児、B 児は、ひとりで何かをしている時につぶやき歌を歌っていることが多くあった。それは、本論の最初に記した「内なる働きかけ」をしていたことを意味しているわけで、一人で遊ぶこと、自分一人だけの世界に浸れることも大切な環境だと考えられる。保育者が共感することによって子どもが快な感情になることは確かであろうが、事例⑪⑫のようにすぐに保育者が A 児に話しかけた行為が、子どもを子どもが入っている世界から脱出させてしまうことに繋がってしまうのかも知れない。もし、話かけずにいれば「音楽的表現」や「内からの表現」に生成されていたようにも思われ、子どもに関わる際には「今、直接的な対応をしてよいのか」といった判断や対応を保育者は瞬時に行うことが要求されると思われる。とはいうものの、人との関わりがつぶやき歌の発生を妨げているわけではない。何故なら、人と関わりをもつ中で発生したつぶやき歌は同年齢の友だちと関わりによって発生しているからだ。相手が笑いはじめた直後に反復した歌を歌っており、おどけている、ふざけていることが歌につながり、一方、事例⑩♪もおらった♪は石をもらったことが嬉しくて言い回っており、うかれていることが歌につながっている。人と一緒におどけたり、ふざけたり、人に限らず何かに心が動きうかれたりできる環境を用意しておくことも「音楽的表現」を育てる環境として大切なことに違いない。

いずれにせよ、子どもの遊びや子ども世界をこわさない環境、保育者が子どもと関わる距離が近すぎず遠すぎずの「ほどよい距離、適度な距離」を保ち、保育者は子どもの世界を尊重することが重要であろう。

今後の課題

本論では、発声を根拠に論だてをしたので、リズムについては述べることができていない。そして、何故、言葉を習得し始めた子どもが言葉の反復をする歌を歌うのかについて未知な部分が点在しているので、明らかにできるように様々な観点から調査をしていかなければならないと考えている。

引用・参考文献

1. Margaret S.Barrett 『Inventing songs,inventing worlds:the ‘genesis’ of creative thought and activity in young children’s lives』(International Journal of Early Years Education,2006),pp201-220.
2. 梅沢由紀子 「幼児の音楽性の現れ」『愛知教育大学研究報告』35(芸術・保健体育・家政・技術科学編) 1986 年、pp13-28
3. 細田淳子 「音楽表現の原点としてのつぶやき歌」『保育学研究』 第 36 巻第 1 号 1998 年、pp12-19
4. 南曜子 「言語習得期における発話と歌の関係」『音楽教育学』第 29-1 号 pp17-31
5. 湊田陽子 「保育園生活をおくる T 児の歌唱発達」『大阪キリスト教短期大学紀要』第 54 集

2014 年 pp197-207

6. 岩井正浩『わらべうた・遊びの魅力』第一書房 2008,7p
7. 細田淳子 同上 13p
8. 南曜子 同上
9. 古賀松香・無藤隆・伊集院理子 「幼稚園児における自発的な‘歌’とその出現場面との関連」『保育学研究』第 36 巻第 1 号 1998 年、pp20-27
10. Daniel J.Levitin 『World in Six Songs』(A Plume Book,2009)pp15-17
11. Daniel J.Levitin (同上) p26
12. 志村洋子『乳児の音声における非言語情報に関する実験的研究』風間書房 2005 年 pp44-54
13. 南曜子 同上